

船舶所有者・船長の皆様へ

船舶からの油の排出基準が

変わります!!

Point

平成19年1月1日から、すべての船舶に同一の油排出基準が適用されることになりました。
又、南極海域での油の排出が禁止となります。

【根拠法令】

船舶からの油の排出については、我が国が批准している「1973年の船舶による汚染の防止のための国際条約附属書（以下「国際条約」という。）の規定に基づき、国内法として制定された「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律（昭和四十五年法律第百三十六号）」において規定されております。今回、この国際条約の改正が平成16年10月に行われ、平成19年1月1日に発効されることに伴い、国内法も改正され、平成19年1月1日から施行されることとなりました。

改正内容については以下のようになっています。

【改正概要】

海洋で油を排出する場合の排

出の方法等を船種別、総トン数別に定めておりましたが、今回の改正により、すべての船舶について次のような排出の基準が適用されます。

《排出基準》

希釈しない場合の油分濃度が15ppm以下であること。

南極海域での排出を禁止。

船舶の航行中に排出すること。

排出する際に排出防止装置（油水分離装置）を作動させること。

【罰則について】

当該排出基準に違反して油を排出した者は、海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律第五十五条第一項第一号の規定により、一千万円以下の罰金に処せられます。

船舶からのビルジその他油の排出

	改正前	改正後
	全タンカー及び 100トン以上の非タンカー	100トン未満の 非タンカー
一般海域	排出可 ・15ppm以下 かつ ・航行中	排出可 ・15ppm以下 かつ ・航行中 ・排出防止装置の作動
南極海域以外の 特別海域	排出可 ・15ppm以下 かつ ・航行中	排出可 ・15ppm以下
南極海域	排出不可 ・排出防止装置の作動	排出不可

南極海域以外の特別海域：地中海海域、バルティック海海域、黒海海域及び北西ヨーロッパ海域

排出する際に作動が義務づけられた排出防止装置

一般海域において排出する場合

	改正前	改正後
総トン数1万トン以上の船舶	・油水分離装置 ・ビルジ用濃度監視装置	
総トン数100トン以上1万トン未満の非タンカー及び総トン数1万トン未満のタンカー	・油水分離装置（燃料油タンクに積載した水バラストを排出する場合にあっては、油水分離装置及びビルジ用濃度監視装置）	
総トン数100トン未満の非タンカー	排出防止装置の作動義務はなし。	・油水分離装置（燃料油タンクに積載した水バラストを排出する場合にあっては、油水分離装置及びビルジ用濃度監視装置）

ここでいう「油」とは、船舶からのビルジ（船底に溜まった油性混合物）及びタンカーからの水バラスト、貨物艙洗浄水（貨物油を除く）のことをいいます。これら以外の油は排出すること自体が禁止されています。